

# 北條民雄と光岡良二

講演者

雨宮 徹

朝日新聞阿南支局 記者

北條民雄の全生病院の友人で、

のちにハンセン病患者の全国組織の初代事務局長を務めた

光岡良二氏から見た北條民雄の世界

日時 令和七年六月八日(日)

十五時～十六時三十分

会場 阿南市文化会館 視聴覚室

阿南市文化会館内 二階 視聴覚室(〒774-0001 阿南市文化会館)



朝日新聞阿南支局 記者  
雨宮 徹 (あびのみやとある)

東京都出身。1996年に朝日新聞社に入社し、青森支局、北海道本社(経済編集)、東京本社(同)、沼津支局(岡山県)、徳島支局、岡山支局などに勤務してきた。  
沼津支局に在勤していた2017年ごろから国立ハンセン病療養所を取材して以来、ハンセン病を取り巻く諸問題やハンセン病の当事者による文芸活動をメインテーマにしてきた。2020年4月～2021年3月まで徳島支所に勤務し、徳島版にて連載『いのちの文学 北條民雄と望城』(全8回)を書く



記者プロフィールと、連載記事『いのちの文学 北條民雄と望城』の初回分をお読みいただけます。

## 光岡良二 (みつおか りょうじ)

1911年11月23日兵庫県に生まれる。昭和陸軍学校を経て東京帝大文学部でドイツ文学を専攻。二年修了時に帰国。1932年1月、全生病院に入院。国内では文芸活動のほか、自治会、全生会(全国ハンセン病患者協議会)での活動、劇団「文芸座」での活動、全生学舎の教師などに力を注いだ。戦後社会復帰するが1948年再入院。1995年4月29日死去。  
短歌は「勲章」「草葉」以外、新日本文学会会員、詩集「誓毛」、「伝説」、歌集に「深冬」、「古竹庵裏」、「水の相聞」、小説は自著「ハンセン病に咲いた花」に収録されている。



いのちの文学  
北條民雄と望城  
(1970年)

写真：上野 三郎(朝日新聞社)提供、下野 三郎(朝日新聞社)

\*感染症に罹ります。感染の進行により講演会場が多少変更されることがあります。

入場無料

お問い合わせ、参加お申し込みは  
お電話かQRコードよりお願いいたします。



阿南市文化協会

〒774-0039 阿南市富岡町西園地5-1

☎070-3794-2453